

第3部 リーダー・フォローアップ研修の実施



現場で「自然教室」を実践したあとの「リーダー養成講座」参加者が、喜びや期待、不安や問題をかかえて、春まだ浅き3月、一堂に集まりました。

「森のムツレ教室」を15年前に日本にもたらした高見幸子さんと、日本で開催した第1回目の「森のムツレ教室リーダー養成講座」を受講なさった大先輩リーダーの足立邦明さん(日本野外生活推進協会副会長)を迎えて、子どもたち(二俣尾保育園園児と友田保育園園児)と一緒に「森のムツレ教室」を実際に体験したのでした。

リラックスして楽しげに子どもたちに語りかける様子、ひとりひとりの気づきに笑顔で応える様子、このお二人の対応を見逃すまいと真剣に学ぶ目と目と目。何より、このプログラムの成功を物語っていたのは、森の妖精「ムツレ」が登場したときの子どもたちの歓声。ムツレさんの質問にしっかり答える子どもたちの輝く目。

ほっとして、疲れがどっと出た講師陣、スタッフのみなさま、ご苦勞様でした！

(1) 「多摩川の森・自然教室」リーダー・フォローアップ研修プログラム

3月8日(土)

9:00 武蔵野市民の森「自然体験館」集合

美しい多摩川フォーラムからの挨拶(森田副会長)

保育園事例発表:2園(各15分程度)

10:00~11:30

「森のムツレ教室」ファイナル模範指導(10:30~森のフィールドへ)

二俣尾保育園園児 6名程度 リーダー:足立邦明

友田保育園園児 12名程度 リーダー:高見幸子

ムツレさん:光橋翠(日本野外生活推進協会東京支部副代表)

11:40 昼食(自然体験館での野外食)

12:30 園児解散

13:00 保育園事例発表:2園(各15分程度)

13:30 質疑応答

14:00~15:00 講義:持続可能な社会構築の重要課題「幼児からの環境教育」

スウェーデンの事例(高見幸子)

子ども達が生きていく時代環境の激変(足立邦明)

まとめ(下重喜代)

15:00~15:30 アンケート 交流

15:30 閉会挨拶(青梅信金・藤木理事) 解散

参加費は昼食を含め無料

持ち物:ルーペ(幼児参加保育園は幼児の分も)、筆記用具、はし&おわん

各自で防寒(雨)対策を

*なお、プログラムは天候との事情により変更する場合があります。

(2) 事例報告資料

①二俣尾保育園（青梅市）



ムツレ教室実施報告

- 実施日
9/29,10/27,11/24
12/22,1/26,2/23
- 対象児
卒園児(7～10歳)
- 場所
自然体験館、園周辺の山
多摩川河川敷など



第1回「ムツレ教室って、なあに？」

- ムツレ教室の約束
- ルーペの使い方
- ピクチャーシアター
- ムツレゲーム
- りんごの皮がどうなるのかな？
- 次回への期待につなげる



第2回「いよいよ山へ出発」

- 前回のゴミ確認
- りんごの皮とペットボトルの違い
- ゴミを拾う
- 山での約束
- 山のお母さんと散策
- 秘密の袋



第3回「多摩川探検、川の石集め」

- 川の石ってなぜ丸い
- 川の役割
- 石に生えている物体
- って何？
- 石に絵を描こう
- 大切な石を自然体験館内に隠す
- 次回への期待



第4回「クリスマスリースを作ろう」

- 前回隠した石を探す
- 山の約束
- リース用の素材探し
(つる、木の葉、実)
- 冬いちご試食
- リース作り



第5回「冬の山探検、冬探し」

- 秋の山との違い
- 霜柱、氷、つらら、雪体験、冬芽観察
- 動物のフン探し
- 冬いちごは、どこへ
- ピクチャーシアター
- 自然を守るには？



第6回「ムツレさんとの出会い」

- 山で自然道クイズ
- 山散策
- ムツレさん登場
- ムツレ教室回顧
- ムツレさんからの贈り物を探す
- 大人になっても・・・



②古里保育園（奥多摩町）

古里保育園

- ・森の厳しさ・楽しさを知ろう。
- ・地域の人との交わりを持とう。
- ・実施日：11月9日
- ・対象児：5歳児（18名）
- ・場 所：小丹波、寸庭～鳩ノ巣、坂下方面

美しい多摩川フォーラム事務局
原島 史



1. 多摩川が白濁化している様子を みんなで観察しよう！台風？大雨？



白濁化した多摩川（11月）



多摩川を観察する子供たちと
アシスタントの学生ボランティア



2. 山の中で野外活動開始！



山道を歩きながら、山の歩き方を覚える。危険のないよう、自分の目で見てしっかりと歩く。「行ってみたい」、「絶対に登る！」との声。すごい山に挑戦するんだ！！というやる気満々だった子供たち。どの子もみんな目が輝いている。



3. 地域の人との交わりを持とう

～お弁当を食べさせてもらったキャンプ場のおじいさん～



子供たちに『いただきます』の意味(命の大切さ)を教えていただく。おじいさんの作ったみかんを見せてもらいながら、「生き物にはみな生命が宿っており、それを人間が生きていくために食するので、命を『いただきます』と言うんだよ」と、「自然循環」について、食事の前に教えていただきました。



養殖しているジマスを触らせてもらいました。すく「ジマ」は弱ってしまいましたが、それを承知でおじいさんは命の意味を教えてくださいました。

おじいさんの敷地にある「室(ムロ)」を見学。

4. 「自然」と「人」とのふれあい。

～地域で子供を育て、その土地柄ならではの大切なことを学びましょう～



みんなでおじいさんにお礼を言う。
自然を通して子供同士だけでなく、近所の方々との付き合い方や礼儀、コミュニケーションも学びました。
また、いつも身近にある自然を、違った角度からも見ることができました。



おじいさんから自家栽培のみかんをいただき、みんなも大喜び！子供たちにとっては、自然環境の知識を学ぶだけでなく、「体で考え、感じる」ことがたくさん詰まった自然環境教育になりました。

以 上

③オリンピック保育園(調布市)

松本 雅子

第1回 9月21日(金) 10時～11時20分 天気 晴れ
参加人数 4歳児 17名、5歳児 17名
場所 布多公園(保育園から徒歩10分)

▼プログラム

- ・ゴミを拾う。(ゴミ・ゴミでない物の区別)
- ・自然の中での三つの約束
(大声を出さない。ゴミは持ち帰る。草や花は根っこから取らない。)
- ・森のムッレのパネルシアターに参加しながら見る。
- ・自然の循環についての話を聞く。
- ・ルーペを使ってみる。

暑い日でしたが、皆真剣に参加、きよおばさん(下重喜代)のクスノキの葉の色の違いを使った「葉っぱの一生」(最後は土になる)の話、木に生えているきのこの話をとても興味深く聞く姿が見られた。パネルシアターは、物語に従って雲・雷・鳥・虫・ムッレ・帽子・靴・服などを一緒に貼りつけることで、とても印象強く残っていった。ムッレの存在も身近に。「土にかえるものはゴミではない」ということも理解できたようだ。その後、葉っぱをゴミという友達はいなくなった。草や花も根っこからとりさる姿も減ってきた。三つの約束も自然に子どもたちの心に入っていった。園庭あそびの中では、アリ、ダンゴムシを見つけても、以前のように、持ち歩いて遊ぶのではなく、もといた場所にもどしている姿が見られるようになった。(葉や、木も小さな昆虫の力をかりて土に戻るといふ循環についても自然に体に入っていった。)

第2回 10月5日(金) 9時15分～13時30分 天気 晴れ
参加人数 4歳児 19名、5歳児 20名
場所 カニ山(園から徒歩20分)
スウェーデンから高見幸子さんが来日して参加してくださる。

▼プログラム

- ・クイズゲーム
- ・シチューとねじりパンでの昼食
- ・宝さがし
- ・クイズ三つの約束

- ・クイズ三つの約束
- ・クモのこと、ゴミと土にかえるもの

カニ山にちなんでのクイズなど子どもたちはとてもよく答えていた。「巣をかわろう」のゲームもはじめてだったが、楽しむことができていた。外で食べる食事におかわりの声、くもについてもくわしくなり、散歩の道すがら、「あっ、ここにくもの巣があるよ」の声がきかれるようになる。(むやみにくもの巣をこわしたりすることがなくなる。)

第3回 11月14日(水) 9時15分～11時45分 天気 晴れ

参加人数 4歳児 20名、5歳児 17名

場所 東京都立府中農業高等学校 神代農場(保育園から徒歩20分)

▼プログラム

- ・コケの話、コケを観察する

講師・斉藤亀三博士(当保育園理事)の話を聞いたり、顕微鏡でコケを観察したあと、実習園のあちこちヘルペを持って走り回る子どもたち、「ここにも」「あっちにも」「コケあったよ」「ふむなよ」「コケのあるところは空気もきれいで安全なんだよ」などの話が聞かれる。自分たちの生活の中で、自分の身近なところにコケを見つけ、歩いていても自然とコケに目がいくようになった。

第4回 12月1日(土) 9時30分～11時45分 天気 晴れ

参加人数 4歳児 2名、5歳児 4名

場所 野川

▼プログラム

- ・調布市の「野川クリーン作戦」のイベントに参加。
- ・土曜保育以外、親子3組参加。

いろいろなゴミの中にたばこやビールの缶などがありました。「だれがすてるんだろうね」の声が子どもたちから聞かれる。この後、河川敷へ散歩に行くと、誰からともなくゴミを拾う姿が見られる。「このゴミ、子どもは捨てないよね」の声に胸が痛む。ゴミの分別もしっかりできるようになる。

第5回 1月31日(木) 9時35分～11時45分 天気 晴れ

参加人数 4歳児 17名、5歳児 17名

場所 カニ山

▼プログラム

・ファイナル・ムツレに会う

ワクワク、ドキドキ、「コリコック」と挨拶の音が聞こえると、シーンとなる子どもたち、姿を見ると、一瞬「えっ」と後ずさり、でも次の瞬間ワァとムツレを囲み、しっぽをさわったりする姿が見られた。ムツレシアターのとおり、帽子をかぶったり、しっぽがあつたりと「ムツレさんだよね」と口々に。

このあともカニ山へ行くと、「ムツレさんいるよね」という声もきかれる。家族でカニ山へ出かけても、帰りにはしっかりゴミを持ち帰るなどの姿がありますと、保護者の方の声も聞かれるようになりました。今まで、ただ自然の中で遊ぶだけでしたが、ムツレ教室の回を重ねるたびに、子どもたちは自分のまわりの昆虫、コケ、草、花、葉っぱ、ゴミなどにも興味をもち、目を向けるようになりました。その中でも、特にコケとムツレには心を強くひかれています。コケは歩くたびに目にし、目を向けています。ムツレは本当にいるんだと確信をもち、ムツレのためにも山を汚さないようにしようと、みんなで決めて遊んでいます。(今のところゴミを拾うということがメインになっている観もぬぐえないのですが・・・)

(3)「多摩川の森・自然教室」リーダー・フォローアップ研修参加者アンケート

2008年3月8日(土)、二俣尾・武蔵野市民の森「自然体験館」

①感想、②今後どのような研修を望むか。

▼ 二俣尾幼稚園 (青梅市)

尾方 真由美

- ① 発表者の役割を担いましたので、かなり緊張しましたが、皆様が友好的に聞いて頂いたので、終わってからは、足立邦明リーダー、高見幸子リーダーの後を、子どもたちと楽しんで参加できました。職業も異なる人々の集いですが、共有するものは1つなので、目からウロコ状態でした。…と同時に、これから皆様とのお付き合いが広がるのが楽しみです。スタッフの皆様、ありがとうございました。
- ② 継続レポートなど長期的視点で子どもたちの姿を見守ることができればと思います。

神林 幸恵

- ① 今回、6名の子どもたちと参加させて頂きました。積極的に高見幸子先生の質問に答える姿を見て、自然に囲まれた地域に住んでいる子どもたちは幸せだと心から感じました。普段の保育の中で、子どもたちの目線で、色々な発見をしています。私たち保育士は、もっと自然についての知識を身につけないと、と改めて感じました。大人も楽しむことで、子どもも楽しめる。今後もたくさんの経験を子どもたち、そして自分自身もできるようにしていきたいと思います。今日6名の子どもたちはムッレと出会えたことで、今以上に自然を守っていこう、もっと知りたい！と思えたと思います。ありがとうございました。
- ② 今回、他の保育園さんとの交流も初めてできました。複数の保育園さんとの交流もてる研修などあればよいと思います。

▼ 友田保育園 (青梅市)

末次 桂子

- ① 懐かしい顔に会えて嬉しく、どの保育園もそれぞれに努力なさっていて、私たちももっと前向きに進んで行きたいと思いました。今回は子どもたちも参加させて頂き、ワクワク・ドキドキの感じでした。楽しかったとの声も帰りには聞かれ、きっと家での話も盛り上がると思っています。本当にありがとうございました。フォローアップ研修として、とても意義あるものだったと思います。
- ② 待っているだけではダメ！とは承知していますが、ぜひ今後も養成講座をお願いします。

原島 秋名

- ① 今回初めて研修に参加して、実際に自然の中を子どもたちと一緒に歩き、子どもたちの発見の多さに驚きました。また、その発見に対しての受け止め方も勉強になりました。

た。子どもたちは歩きながら色々なところをキョロキョロと見回し、ほんの小さなことも嬉しそうに教えてくれて、楽しんでいるんだということを強く感じました。遊びながら学ぶことの大切さ、楽しさが感じられる研修だったと思います。ありがとうございました。

- ② 保育園全体での共通理解が不足しているため、今回のような研修の機会があればと思いました。

▼ オリンピア保育園（調布市）

吉野 一枝

- ① ムッレさん登場に子どもたちの表情が素敵でした。オリンピアでも同様でした。子どもはどこでも同じ！！こんな素敵なことを通して、私たち大人はしっかり自然の仕組みや大切なことを知らせていかなければいけないと思います。更に、ムッレを通して、やがて日本を背負う子どもたちが、自分たちの住む日本、世界、地球を真に愛せる大人へと成長できるように、考えることのできる大人になれるように、幼児から…という思いを改めて思いました。ありがとうございました。
- ② 引き続き東京でのリーダー養成講座開催をお願い致します。やはり仲間を広げるには実体験しかないです！

松本 雅子

- ① 子どもたちを交えてのムッレ教室。自分で行っている時にはなかなか気づけなかったことや、「あー、こんな時にこうすれば」など、色々な気づきができました。ありがとうございました。他の保育園の活動内容を聞くことができ、とても参考になりました。
- ② フォローアップ研修は大切だと思います。また、仲間がもっとムッレ教室のことを知る機会があったらと思います。仲間づくりをしていきたいです。

吉橋 由紀

- ① 保育園で取り組んでいても、直接関わったことがなかったので、今回は実際に子どもたちと参加できてよい経験となりました。私は初参加でムッレさんに会うことができただけで、数回取り組み、ムッレさんと…とそれぞれの期待がどんどん膨らんで会えた子どもたちは、すごく嬉しかったらと思います。私はムッレさんより子どもたちの表情に魅せられていました。子どもの声に耳を傾けること、子どもたちの見たい、触れたいという気持ちにこたえて、子どもたちにたくさんのことを教えて一緒に考えて行きたいと思います。ありがとうございました。
- ② 実践や実践報告を入れたもの。今回の山のような場所だけでなく、公園やちょっとした自然のある場所とか、川歩き（河川敷の自然など）もあつたらいいです。

小林 幸恵

- ① ムッレさん登場を2回（今回とオリンピアの時）見ることが出来たのですが、子どもたちのキラキラとした純粋な目。どこの子どもも同じだなーと思いました。子どもで

すが、大人の自分自身もワクワクしてしまいました。保育園では、自然教室などを取り組んで実際に参加していましたが、今日はリーダー役の講師の元、他の保育園の子どもたちと一緒に回れたということが、とても良かったです。自分たちの周りにまだまだ自然がたくさんあるので、色々なことを知ると知らないのでは全然違うので、勉強して少しでも自然を大切に、子どもたちに伝えて行きたいと思います。今日はありがとうございました。

② 昨夏のような養成講座を東京で開催して頂きたいです。去年は参加できなかったのです。

▼ 成末 雅恵 (NPO 法人自然環境アカデミー)

① 今回、ムッレさん登場における子どもたちの反応や驚き、恐れなどを見ることができて良かった。これまでは小学生たちとのかかわりが多かったので、保育園児の柔らかな感受性や受容性には改めて驚いた。やはりできるだけ小さいうちに、自然との関わりや、ムッレの世界に触れさせると、より想像力や夢のある人生を描ける人に成長できるような気がした。

② 継続的にリーダー養成を地道に色々な年代や地域に広げていく必要があると思う。

▼ 市田 豊子 (NPO 法人やんばる森のトラスト)

① 今回、実際に幼児と一緒にムッレ教室の本番に参加することができ、子どもたちの生き生きとした元気な様子とリーダーの指導（接し方）を直接学ぶことができ、本当に良かったです。憧れのリーダー高見幸子さん、足立邦明さん、ムッレの本の著者の三橋翠さん（旧姓岡部）にお目にかかり、お話できたことにお礼申し上げます。

② 今後は実践あるのみです。そのための沖縄での展開の方法を学ぶことができたらと思っています。一生懸命、楽しく頑張りますので、今後もよろしくお願いします。

▼ 奥野 瑛子 (都立青梅総合高校2年)

① すごい勉強になりました。自分の知らないことや、自然のことを学べて嬉しかったです。今回、研修に参加してよかったなと思いました。

▼ 野尻 美枝 (オブザーバー参加：東京 YMCA・社会体育保育専門学校)

① 初めての体験で伺うことができ、またムッレ教室を目にすることができ、本当に貴重な学びをさせて頂きました。お声がけいただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。啓発、広報アナウンスをより広げていけば、このような学びを求めている方は沢山いらっしゃると思います。保育（現行）にどのようにムッレ教室を取り組むか、一緒に模索できたらと感じました。

② リーダー養成の課程（プロセス）、展望をもっと知りたいと思いました。

▼ 丹野 かよ子 (オブザーバー参加：市民環境ボランティア)

① 子どもたちの好奇心を引き出すのにとっても成功していたと思います。自然というとてもステキなものにプラスして、ムッレという大きなワクワク感を引き出す対象がいる。

こんな方法もあるんだ！と気付き面白かったです。また、あまり難しいことを考えず、連れ出す一歩があればいいと思いました。

- ② 川について学んで楽しめる企画を見学させてもらいたいです。

▼ 加藤 秀俊（オブザーバー参加：市民環境ボランティア）

- ① 子どものファンタジーの素晴らしさを改めて感じる事ができたのが一番良かったです。これに参加する大人にとって、子どもの可能性というのを再認識できる場になってもいいと感じた。
- ② 「子どものファンタジーに働きかけて環境教育を効果的に行うには」というような、上級編のような研修があったらいいと思う。なんとなく効果はあるんだろうけれど、と納得している人は多いと思う。その先も導いてほしい。（すみません、今日の研修しか参加していませんので、これまでどのようなことをなさってきたのかを知らずに発言させていただきます。）

▼ 原島 史（美しい多摩川フォーラム事務局）

- ① 子どもたちの視点が素晴らしく、改めて子どもの柔軟な考え方に感動しました。例えば、杉の実を見て、「バラみたい」。また猫じゃらしを見て、「ムッレさんのしっぽみたい」。更には「土の中から貝が見つかったよ！」等と、子どもたちは山に行く途中にも、多くの自然を発見して喜び、自分の知っているもので、似ているものに照らし合わせて、想像し、楽しむ姿も可愛らしく、面白かったです。保育士さん、NPO など、お互いに異なる業種に携わる方々が、こうして1つの事業によって1つの場所に結集し、自然を通して教育や環境について語り、交流し合う、広域的なネットワークができたことにも嬉しく思いました。現場で働くことが多いであろう参加者の方々にとって、「交流する機会がある」ことは大きな励みになったのではないのでしょうか。足立邦明先生、高見幸子先生のお話からも日本の子どもたちのこれからについて考えさせられました。子どもたちの反応からも明らかでしたが、ムッレ役の光橋さんからもムッレをすることに対し、「やりがいがあって楽しくて、やみつきになる」という言葉を聞くことができました。子どもたちもムッレさんも、自然や野外活動が好きなのだな、と感じました。野外食もとてもおいしく、中でも焼き芋は子どもたちに好評で、ご飯を食べ終わると次々にお芋をもらいに来ていました。子どもたちが満足そうにお腹いっぱいにして、笑顔でお別れした時、この子たちがこの日のことを大きくなって覚えていてほしい、伸び伸びと成長してほしいと思いました。
- ② 子どもたちが発見したことを、子どもたちがお話できる機会があれば良いなと思いました。また、少しずれますが、自然を通して、自然の中にある「食べられるもの」にも視点を向けてみてはいかがでしょうか。木の実や野草、お茶等、山には多くの恵みがあります。子どもの自然環境と健康（食について）も自然循環を学ぶ上で大切ななと感じております。

(4)保育園からのはがき

①二俣尾保育園(青梅市)

うさみゆい



かんめせいな



たからべのあ

みねぎしさほ

あらいはやて

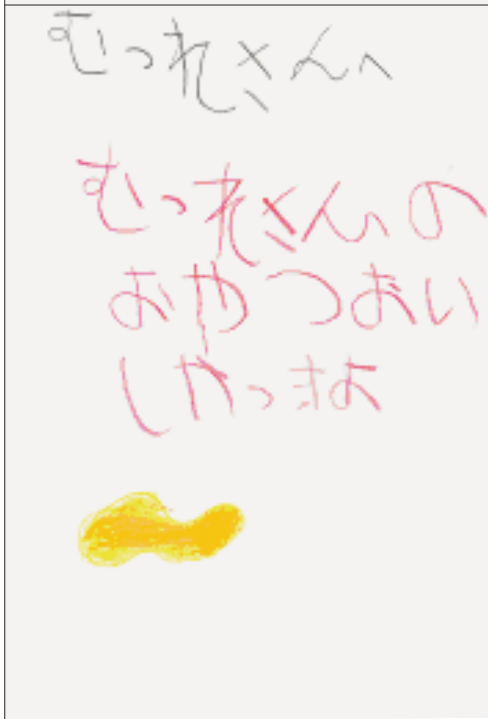


②友田保育園(青梅市)

やまもとゆうき



寺門心路



たかはしゆうすけ

えのきどまさい

みつき

はると

十の来ち多あえ
 てうあしかたよ
 かのとあけうた
 たあむりのあかほ
 ありがとうとまたあ
 まいね
 みつきより

あんたんえもり
 のおそうじがは
 てくたあけかみあ
 いしげたあ
 はるとより

せうはさつえん
 あつたあ
 なつたあ

 たあ
 さかたがく

あんあさんと
 あえてあし
 かたあぼく
 あろのおげく
 てくああろか
 あはまなか
 けんたより

さかたがく

けんた

ももか

村越先生

むかしむかし
「おれが」たのし
かったよ
またあえ
るといひ者
とんじる
おもしろかったよ

● 楽しい時間を思い出していただきました。
初めて大人数に参加です。月曜の
昼過ぎから軽水 自然の中にいらるる
「おれが」を感じました。
● 森の中で幼少時遊んだ場所だった
ので、夕飯の「おれが」にうなずきました。
自然に心電図を打つことのできる体験は、
子供時代に比べて大分おもしろいと思
います。子供時代に比べると、体験の
面白さを感じています。
● 子供時代に「おれが」が大好きだと思
います。(おれがが好きです)。
おれがが好きです。
● おれがが好きです。

たけたにだいき
たけたにだいき
たけたにだいき
たけたにだいき
たけたにだいき

たけたにだいき

第4部 参加者のレポートから



この「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座には、日頃から環境教育にかかわってきた人、環境調査・研究に従事してきた人、環境行政にかかわってきた人など、その筋ではかなりなキャリアを持つうるさ方(失礼!)が手を挙げて参加してくださいました。

その方々がこぞってプログラムの良さを評価してくださったことは、たいへん嬉しいことでした。

「美しい多摩川フォーラム」では、この次世代育成のためのプログラムを継続して次年度も開催してほしいという声が挙がっていますが、この長丁場のプロジェクトを取りまとめた担当としては、ここで一旦幕を引き、エネルギーをチャージして再登場したいと考えています。

その折には、今回受講されたみなさまがより経験を積まれて、リーダーとして、スタッフとして参加してくださることを切に期待しています。

日本の未来は幼児の自然体験から

エコプロデュース

代表 森下 英美子

昨年夏に開催された美しい多摩川フォーラム主催の「多摩川の森自然教室」(通称ムッレ教室)リーダー養成講座にスタッフとして参加し、また、二俣尾保育園、友田保育園、オリンピア保育園のムッレ教室にもお手伝いとして参加させていただきました。

これまでは、「森のムッレ教室」リーダー養成講座を受講しておりましたが、実際に子どもたちと教室を体験したことがなかったので、とても素晴らしい体験となりました。

ムッレ教室のすばらしさは、何と言っても、生態系のしくみとその生態系の一員として人間がどう振る舞えばよいかということ、5～6歳の子どもが身につけていけることにあります。

プログラムのすばらしさは、自分自身がリーダー養成講座を受講したときに実感していましたが、本当に子どもたちが受け入れてくれるのか、実際にムッレ教室を体験するまで、わかりませんでした。ところが、「森の3つのお約束」はみんながすらすら言えるし、当たり前のこととして実行してくれるのです。納得できる背景があれば、小さな子どもだからという先入観は不要なのだということ、初めて知りました。

また、大人が扮装した妖精を、子どもたちが受け入れてくれるのかという点も心配でした。養成講座ではラクセという水の妖精役を、ムッレ教室では、ムッレ役をさせていただきましたが、養成講座では、保育園の先生たちの満面の笑顔に出会い、ムッレ教室では子どもたちの驚きと真剣なまなざしに出会いました。子どもたちは「本当にムッレはいたんだ」という驚きから、ムッレを受け入れるまで時間は必要ありませんでした。そして、遊んでいる間も、しつぽを引っ張ったり、口々に話しかけてくれたり、森の仲間としてすんなり受け入れてくれました。最後には、「また来てくれる?」「また会おうね」という言葉に送られました。

ムッレ役をやった保育園には、それ以前にも教室のお手伝いに行っていたので、人間の大人が演じていることを知って子どもたちががっかりするのではないかと心配でしたが、保育園児は全然気づかずに受け入れてくれました。しかし、小学生のひとりには、正体がわかってしまいました。大きな声で「モリさんでしょ?」と言われたときには、心臓が止まりそうでした。とっさに、その

子に「実はモリさんのふりをして、みんなの様子を見に来ていたんだ。ほかの人にはないしょだよ」と耳打ちしたのですが、それですんなり信じてもらえました。その後、保育園の先生にもそのことを話さなかったそうです。信じてもらったことはうれしいことでしたが、本当にそれでよかったのか、今でも気になっています。

私自身は、環境関連の仕事もやっています。その中で常々思っていることは、なぜ日本では政治をつかさどる人々の理解がなく、対策もなかなかうまく進まないのだろうかということです。スウェーデンは環境先進国であり、環境政策もどんどん進んでいます。スウェーデン生まれのムッレ教室を日本に紹介した高見幸子さんとお話したとき、「なぜ、スウェーデンでは、環境政策があんなに進んでいるのですか？」とお聞きしました。彼女はあっさりと「政治家の多くが子ども時代にムッレ教室を受けているからよ」と答えました。

確かに、生態系の仕組みや物質の循環のしくみを理解していれば、環境政策をどう進めるべきか自明のことです。日本での環境教育は、ただ“地球に良いことをする”というような形で受け入れられているようです。何をめざしているのか目的が不明瞭なところが多いと思います。しかし、ムッレ教室は、科学的な論理が、つまり、人間が生態系の一員であること、地球の循環の範囲内に人間の生活を組み入れていかなければならないことが、素直に受け入れられるように工夫されたプログラムとなっています。今後、このムッレ教室を拡大し、参加する子どもを増やして行って、その子どもたちが大人になったときに日本が変わるように、微力を尽くしたいと思っています。

理想的な環境教育プログラムを体験して

全国巨樹・巨木林の会
理事 小川 はるみ

世の中にはさまざまな対象に向けた自然環境教育があります。特に幼児や子ども向けの環境教育には次の3つの要素が必要なのではないかと思います。それは「コンセプトが明確であること」、「楽しいこと」、「子どもの未来に影響を与えられるもの」の3つです。すなわち理念やプログラムがわかりやすく、実践して楽しく、効果が持続する、まさにこれをかなえているのが「森のムッレ教室」ではないでしょうか。

2007年8月10～12日の猛暑の3日間、この「リーダー養成講座」に参加し、このことを実感しました。「森のムッレ教室」はスウェーデンの幼児向け環境教育がベースになっています。自然が豊かなスウェーデンでは近くの森を園庭と考える文字どおりの野外幼稚園や保育園が多くあります。そこでは四季を通じてさまざまな自然と出会い、発見や共生を経て人間性をはぐくむ「森のムッレ教室」という環境教育を実践しています。

この「リーダー養成講座」は、森のムッレ教室のコンセプトとプログラムの普及とムッレ教室を多摩川流域で実践できる人材の育成を目的としています。

フィールドは主催した「美しい多摩川フォーラム」のお膝元、青梅の豊かな山野と多摩川でした。さてこのプログラムの楽しさは一言では表現できません。フィールドでは草木、鳥や昆虫、太陽や風、せせらぎの音や森のにおいなど五感を通じて自然という宇宙に溶け込んでゆく喜びや楽しさに満ち溢れていました。わたしも自然の一部、という感覚です。その喜びや楽しさがリーダーとしての動機づけ、使命感、プログラムへの理解度を深めてゆくのです。講座はフィールド体験と講義の両方で構成されています。体験の後に見たこと感じたことを理論付けしながら自然の法則を理解してゆきます。絵やイラストを使ったオリジナルの教材も作ります。

受講者は幼稚園や学校の先生、NPO関係者など約20名、それぞれの場でムッレ教室のリーダーになる方々です。ムッレ教室のリーダーは「先生」役ではありません。必ずしも子どもたちの疑問に答えられなくてもいいのです。自然に対して同じ目線に立ち一緒に考え解決していこうという姿勢が重要だと教えられます。環境教育のリーダーは専門家でなくてはならないという私の思い込みを覆し、自信もつけさせてくれたコンセプトのひとつです。

環境問題はすべての人が当事者であると言われます。例えばこの講座は私た

ちの日常生活との関連も見のがしません。「森にないものは持ち込まない」などの指摘も意義深いものです。静かな森の中でプログラムを体験してゆくと、自らの日常生活を振り返ってしまいます。私たちがいかに環境を蝕んでいるかライフスタイルを省みるきっかけになります。私も環境には優しい生活者と自認しつつも更なるスパイラルアップの必要性を痛感しました。

このプログラムのハイライトとも言うべきもの、それは森の妖精ムッレの登場です。ムッレは子どもたちと自然との橋渡しの役割を担います。木立の向こうから突然現れるムッレには感動します。ムッレの登場後、歌やゲームでふれあい、森に帰るムッレを見送るまでの時間はプログラムの一環というよりファンタジーそのものです。今でも鮮烈によみがえります。3歳から6歳ごろまでの体験や思い出は人間性を築く基礎になると言われています。リーダーとともに気づき、発見し、驚き、喜ぶ体験は間違いなく子どもたちの生きる力になることでしょう。プログラムのまとめの中でスウェーデンの野外幼稚園と普通の幼稚園の子どもたちの「忍耐力」や「協調性」などについて行動の違いが紹介されました。ここでも自然とのふれあいが幼児期の心身の発達にいかにより影響があるかがわかります。

自然が身近にあるようで実はない様な昨今、私たちは自然に親しむ姿勢や方法をもう一度考えてみる必要があります。子どもたちが毎日通う幼稚園や学校の近くの自然を活用して日常的に教育を実践してゆくことこそ意味があるのではないのでしょうか。スウェーデンにはすべての人が等しく自然の恩恵をうけられる「自然享受権」という権利が保障されているそうです。自然の専門家ではない普通の人々が、リーダーとして自らの感性と知識と知恵を使って子どもたちを導いてゆくことは、環境教育の基本ではないかと思うのです。

「森のムツレ教室」の大きな波及効果

NPO 法人自然環境アカデミー

成末 雅恵

「森のムツレ教室」には、4～5年前から関係があり、少しばかりお手伝いさせて頂く機会があった。だが、今回のようにきちんと3日間の研修全てを受講したのは初めてである。保育園の先生方と共に、幼児の野外教育に係わられたのは貴重な経験であった。その後も半年間、月に1回二俣尾保育園の「ムツレ教室」に参加し、3月のフォローアップ研修にも参加させていただいたので、この機会に感想を述べてみたい。

この研修期間の中で、最も印象的であったのは、3月のフォローアップ研修で子どもたちがムツレに出会った瞬間であった。それは子どもたちにとって喜びであったり、驚きであったり、恐れであったりと、さまざまな反応を見せてくれた。まさに子どもたちがファンタジーの世界に生きていることを垣間見た瞬間だった。子どもたちにとっては、ムツレはサンタクロースと同じように、存在するものなのだろう。ムツレ教室を幼児期に行なうということは、とても意味がある。この子どもの発達段階に対応した自然教育は、保育園や幼稚園での取り組みが今後期待されるし、非常に大切なことだと思った。

私が研修を受けたお陰で、自分自身も少し「自然観察」の場に貢献してみたいという欲求が生まれてきた。二俣尾保育園の「ムツレ教室」に通い始めた頃は、子どもたちとどのように対峙して良いのかが漠然としていて不安であった。でも子どもたちと何回も会うようになって、いつの間にかそんな気持ちは解消していた。それは、子どもたちも変わったが、最も変わったのは保育園の先生方だったように感じた。つまり先生方にとっても、最初は「ムツレ教室」の開催の経験がないので、試行錯誤でいろいろ準備しないと不安ということがあったように思う。だが先生方が森の中での自然との出会いや偶然の発見を楽しんで行くうちに、教えるというよりも、子どもたちと一緒に遊ぶという関係に移行し、心から自然との触れ合いを楽しんでいると感じられたからである。

私自身も「ムツレ教室」のために何かをしなければと、あれこれ悩まなくても、子どもを自然豊かな森の中に連れて行きさえすれば、子どもたちは自らいろいろなことに気付き、発見し、遊び始めるということを知った。考えてみれば、私たちの遺伝子には、太古から自然の中で生きてきた結果、森や川に行け

ばその場に適した行動が触発されるよう、遺伝子に組み込まれているに違いないのである。実際、どの子どもたちも嬉々として遊び始めた。森の中で、アカガエルとの出会いに狂喜した子どもたちの目の輝きは忘れられない。だから私達はもっと子どもたちを、早い時期から自然の中に連れて行くことが必要だと感じた。そこでさまざまな自然体験を重ねることによって、自然や仲間との付き合い方をマスターし、自然からのエネルギーをチャージすることができるようになるからである。それが将来大人になってからも、生き生きと元気を保つツールになっていくと思われた。

その証拠に、昔から自然の中で十分遊んで育った人は、実に元気である。「ムッレ教室」では“森のお母さん”と呼ばれている方も、また「ムッレ教室」に携わっている多くの大人も、どこからそんなにエネルギーが湧いてくるのかと思うほど、エネルギーッシュである。それは自然のエネルギーをしっかりとチャージできる術を習得しているからではないだろうか。

今後「ムッレ教室」は、保育園や幼稚園の幼児教育の中で更に広く展開されれば、自然から遠ざかってしまった大人と子どもが自然と触れ合えるチャンスを与え、新しい自然との触れ合いを提案していくことができると考えている。

ムッレ教室に私と一緒に参加した仲間の一人は、その後、この体験を生かして、親子の自然観察会を始めた。いろいろな場でムッレ教室の遊びやゲームを取り入れるならば、素晴らしい企画がいくつもできるに違いない。さらに、ムッレ教室はストレスの多い人工環境に取り囲まれてしまった現代人にとって、切実に求められている「癒し」や「生きる力」に繋がるのではないだろうか。

多摩川の森から沖縄やんばるの森へ

NPO 法人やんばる森のトラスト
事務局長 市田 豊子

飛べない鳥ヤンバルクイナや日本で一番大きなカブトムシ、ヤンバルテナガコガネが生息する沖縄本島北部の国頭村、東村、大宜味村は、通称、山原（やんばる）と呼ばれる地域です。イタジイやオキナワウラジロガシなどの照葉樹で覆われる山々の森は、地球上でここだけにしか生息しない数多くの野生生物を育み、我が国で最も生物の多様な地域といわれる豊かな環境があります。私が住む大宜味村の喜如嘉小学校は、全校児童が 50 人の小さな学校です。東京から喜如嘉に移り住んだ 20 年前に、学校前に広がる田んぼで、初めて小学生を対象に野鳥観察を行いました。

このやんばるの自然を守り次世代に伝えていくには、子どもたちの環境教育こそ大切だと考えたからです。登下校時に毎日通る田んぼでも、野鳥のことなど誰一人気にかけていません。でも、良く観察してみるとたくさんの野鳥がいて、遠くシベリアなどからやって来る渡り鳥の越冬地にもなっていることを知って、子どもたちも教員も大感動しました。

幸いな事に、そのとき以来、小学校では野鳥観察が続けられています。環境教育モデル校や総合学習での取り組みに、地域に住んでいる私は講師としてずっと関わる機会を得ています。しかしいくら工夫しても、年に数回の野鳥観察では子どもたちの興味を深めることは困難でした。

身近な環境から始まって貴重なやんばるの森に気付き、地球環境にまで思いを巡らすにはあまりにも時間が足りないのです。野鳥観察の指導をすればするほど悩みは深くなり、長い間の課題でした。

そんな折、昨夏、発足したばかりの「美しい多摩川フォーラム」の教育文化事業の一環として「多摩川の森・自然教室」リーダー養成講座があることを教えて頂きました。講座の内容は、50 年前にスウェーデンで発足した 5～6 歳の幼児を対象とした環境教育「森のムッレ教室」に学ぶ研修会ということでした。

「森のムッレ教室」は、確実に成果を上げている幼児環境教育として注目されているものでしたので、私はすぐに参加の名乗りを上げました。

小学校入学前からの自然学習体験は、子どもたちの好奇心を駆り立てます。関心はさらに広がり、いつのまにか自然や環境のしくみや大切さを思う心が芽生えるようになります。そして、そのことが地球規模で環境問題を考える子どもを育てることにつながっていくでしょう。懸案の時間不足の解決策がここに

あるのではないかと考えました。

ところで、今は沖縄に住んでいる私ですが、多摩川は私にとって人生の思い出がいっぱい詰まった川です。北風吹く多摩川で初めて探鳥会に参加し、望遠鏡の中に見たカルガモの黄色いくちばしの感動が、野鳥との最初の出会いでした。その後、「多摩川の自然を守る会」の活動にも加わって、何度、多摩川に足を運んだことでしょうか。多摩川は野鳥や自然の大切さに気付いた私の原点ともいえる川なのです。

その川がきっかけとなり、私はもう一度、自然とのふれあい方を学ぶ機会を得ることが出来たのでした。「森のムッレ教室」で教える幼児期の自然体験の重要性は私にとってたいへん納得のゆくものでした。それもそのはず、スウェーデンではスタートして50年の間に国民の5人に1人の割合という200万人もの子どもたちを受け入れ、支持され続けている「森のムッレ教室」、これこそが私が長い間探し続けていたものなのかもしれないと思えたのです。

東京から帰る飛行機の中で、将来、多摩川とやんばるの子どもたちが、環境問題をテーマにお互いの森を訪問するようなことが出来たらいいなどの思いを強くしました。

これから少しずつ、沖縄のやんばるの森に根ざした幼児のための森の教室を実践していくために、思いを巡らせているところです。

このようなリーダー研修会を企画して下さったこと、そして、私にも参加する機会を下さったことに心から感謝するものです。

リーダー養成講座を振り返って

美しい多摩川フォーラム事務局
原島 史

美しい多摩川フォーラム主催の「多摩川の森・自然教室リーダー養成講座」（8月10日（金）～12日（日）の教育者向け講座と、8月18日（土）～20日（月）の学生向け講座）が、武蔵野市民の森・自然体験館と森（青梅市二俣尾）で開催されました。「多摩川の森・自然教室リーダー養成講座」は、日本野外教育推進協会（高見豊会長）を講師に招き、日本野外教育推進協会が推進するスウェーデン発の子ども向け環境教育プログラムの「森のムッレ教室」を、多摩川流にアレンジしたものです。「多摩川の森・自然教室リーダー養成講座」は、自然を通して、次代を担う子どもたちに自然循環について、また子どもたちのバランスの良い発達と想像力を育くむことを目的として立ち上がりました。

研修は3日間の講義や屋内外での実習をみっちり行う一方で、食事は自然体験館で野外食を皆で一緒に作る等、とても楽しく、密度の濃い内容でした。私は教育者向け講座に参加しましたが、教育者向け講座の参加者の殆どは多摩川上流～中流域の保育士さんやNPOで活動している方たちでした。幾つかのグループに分かれ、私はベテランの先生方と一緒にになりました。最終日の自然の道クイズの発表に向けて、どのように決めて行動しようか、お互い話し合いながら良いアイデアを出していきました。その際に、参加者の方々の保育や自然に対する熱心な思い等を伺い、よりよい研修にしようと皆で話し合い、研修に対する気合をいれました。

高見豊会長からムッレの手法の手ほどきを受けながら、ルーペで身近な自然を観察したり、森の中で耳を澄まし、自然を五感を通して感じる遊びや、ムッレ鬼などのゲームを体験させてもらいました。さらに、参加者の方々の保育や自然への熱い思いを、リーダー、受講者ともに語り合いました。また野外食作りは、皆で力を出し合い、パン種づくり、炭火での巻パン焼きをしながら交流を深めましたが、美しい多摩川フォーラム事務局のサポートもあり、スムーズに準備が進みました。

二俣尾の森の中で、「人は自然の循環の中の一部」であることを体験し、また自然の中で共に体験することが、歳も立場も違う知らない人たちを短時間で仲良く結びつけ、学ぶことの大切さを人に教えてくれると感じる研修でした。

学生向け講座は、はじめこそ初対面で緊張していた様子でしたが、徐々にお互いに打ち解けあい、また研修に興味が増している様子が見えはつきりとわかりま

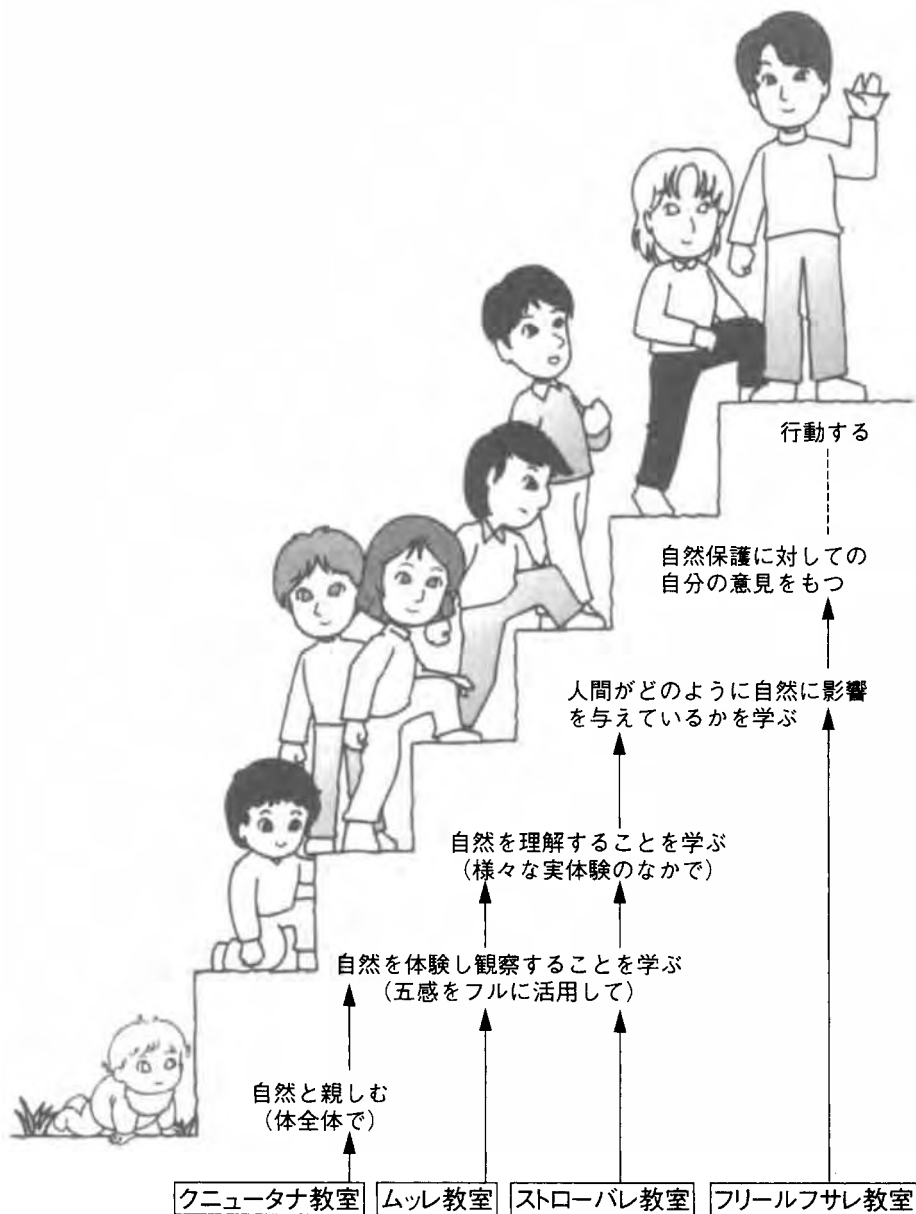
した。誰でも最初は「恥ずかしいから」など、初めの一步を踏み出せずにはいたようでしたが、研修の2日目、3日目からは慣れ始め、男女共におしゃべりしたり、夢中になって外食用のパンの種を練るなど、とても楽しんでいる様子でした。

アンケートからも「色々な話が聞けたり楽しい活動ができて良かった」「3日間の間にこんなに山に入ったのは初めてだった!」「虫が嫌いだっただけで、受講後は虫の役割を理解できたし、好きになった」と、高校生自身もこの3日間で自分が大きく変化していることに気付き、驚いているようでした。高校生たちにも忘れられない貴重な経験であり、「短くても充実した夏」であったと思います。

環境問題が叫ばれる現代社会において、「多摩川の森・自然教室リーダー養成講座」は、次世代を担う若者たちに自然循環の大切さや自然から学ぶ（弱き生きものを慈しむ心など）機会を与えたと思います。今後も自然から学ぶ大切なことを、自然が循環するように、次代を担う子どもたちに受け継がれていくことでしょう。そして多摩川圏民にとって、心の故郷となる多摩川であり、また、そうした多摩川の森にしていきたいです。

自然の階段

子どもの心身の発達にあったプログラム



おわりに

昨年の暑い暑い夏8月、保育士・高校生に対するリーダー養成から始まった「森のムッレ教室」が、このほど無事終了いたしました。

私たち大人が幸せだったことは、野山を駆け回り、知らず知らずのうちに自然と対話し、守り、育てることを覚えてきたことです。

今破壊されつつある地球から、子どもたちにそれらをどのように受け取らせ、身に付けさせてあげられるかということは、大きな問題だったのです。そして8月、この教室で学んだことは、子どもたち一人一人の言葉となって返ってくるようになりました。

3月には、皆、見違えるような目の輝きを放ち、自らの言葉を持つようになりました。森や自然の持つ力は及びもつかないほど大きなものであることを実感して、このプログラムを終了することができたことを、大変嬉しく思いました。

ここに至るまでには、計り知れないほどの大勢の方々のお力を頂きました。この「環境学習『多摩川の森・自然教室』による人材育成事業」にご協力をいただいた皆様々に心からのお礼を申し上げます。

2008年3月13日

美しい多摩川フォーラム

環境清流部会長 福田 珠子

「森のムッレ教室」テキスト資料一覧

- ・「自然のなかへ出かけよう」スティーナ ヨハンソン著 日本野外生活推進協会刊
- ・「自然の循環」スティーナ ヨハンソン著 日本野外生活推進協会刊
- ・「子どもたちのコンパス」ムッレボーイ野外保育園、ナチュラル・ステップ共著
日本野外生活推進協会刊
- ・「食農教育」2007年7月号 p154-159 農文協刊
- ・「こどもの本棚」2007年7月号 p29-31 日本子どもの本研究会刊
- ・「サステナブル・スカンジナビア」2007年3月 vol.18 スカンジナビア政府環境局刊
- ・スウェーデンからの贈りもの「森のムッレ教室」幼児のための環境教育 岡部翠編 新評論刊

プログラム協力

日本野外生活推進協会

日本野外生活推進協会東京支部

<http://www7.ocn.ne.jp/~mulle/top/html>

[mail:mulle@wonder.ocn.ne.jp](mailto:mulle@wonder.ocn.ne.jp)

mail:kiyo-sun@nifty.com

平成 19 年度

東京都教育委員会受託事業

『『地域力』を活用した青少年の育成』事業報告書

環境学習「多摩川の森・自然教室」による人材育成事業

2008 年 3 月 3 1 日発行

発行 美しい多摩川フォーラム

198-8722 東京都青梅市勝沼三丁目 65 番地

青梅信用金庫 地域貢献部内

TEL.(0428)24-5632 FAX.(0428)24-4646

E-mail:forum@tama-river.jp

URL:http://www.tama-river.jp

編集 下重喜代（教育文化部会長） 宮坂不二生（事務局長）